

火起こし

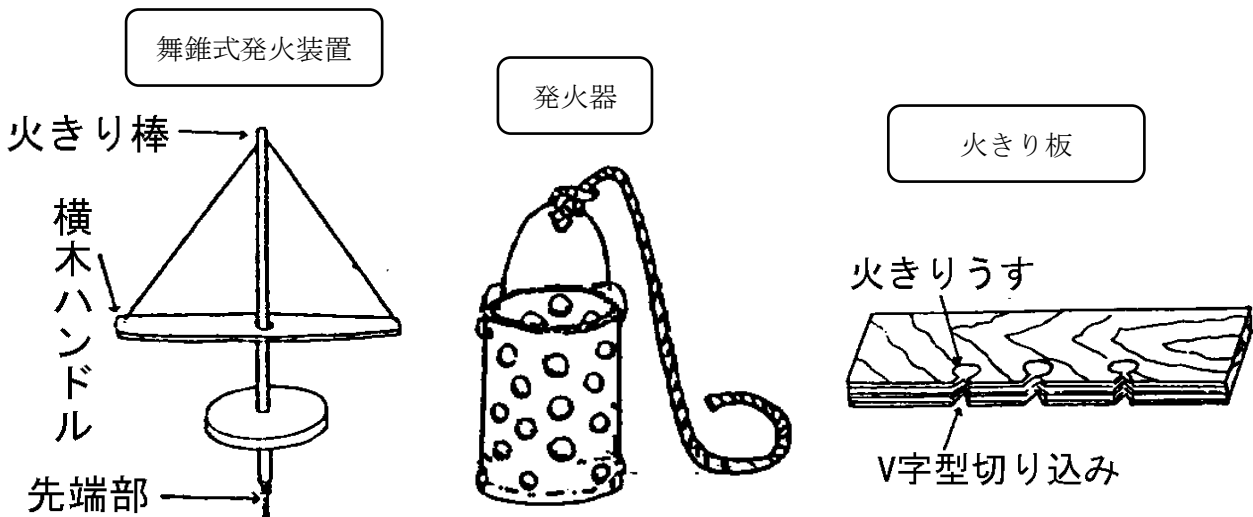
- 1 所要時間 実演しながらの説明：(約20分)
用具の貸し出し：(約10分)
活動時間：(約30分)

- 2 服装 活動しやすい服装

3 準備物

- ・ 利用者 軍手
- ・ 施設側 火起こしセット (最大24セット)

品名	数量	品名	数量
舞錐式発火装置	1	鉄缶	1
発火器	1	火ばさみ	1
火きり板	1	松葉	
切り出しナイフ	1	麻ひも	
飯ごう内ぶた	1		



- 4 活動場所 野外炊事場

5 活動の流れ

係 分	内 容	活 動		引率・指導者	施設職員	その他
				参加者誘導 事前説明		
0	集合・説明	集合・説明（小集会場）		活動の運営 補足説明	諸注意 ※活動の流 れの説明	
20～	◎用具の貸 し出し	クラフト室前で貸し出し用具の受け取 り・確認（数量、破損の有無の確認）		用具係の選出 活動場所の指示	用具の受け 渡し	
30～	活動	(1) 発火器の準備 (2) 舞錐式発火装置を使って火種作り (3) 発火器で火を大きくする。 (4) 火を移す。		活動補助	活動補助	
	◎用具返却 ・片付け・ そうじ	用具の片付け (用具の数を確認 し、クラフト室へ)	残った灰を鉄缶に 入れて灰捨て場に 運ぶ。	返却用具の第1 次点検 清掃指導 事後指導	返却用具の 第2次点検 ・受け取り	

◎ 職員による利用団体へ用具の貸し出し、返却時の第2次点検を主として行う。（第1次点検は利用団体で行う。）

※ 利用団体の要望に応じて、施設職員から活動の大まかな作業工程について説明をすることができる。

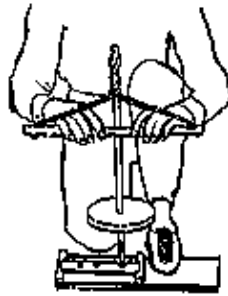
6 作り方

- (1) ① 麻ひもをほぐしておく。（飯ごう内ぶたに入れておく。）
② 発火器に松葉を詰め、その上にほぐした麻を丸めて乗せておく。
③ 固定台に火きり板を置く。
※ 固定台の中で火きり板がぐらつくときは、小石を詰めるなどして固定する。
- (2) ① 火きりうすに舞錐式発火装置の先端部をあわせ、横木ハンドルを上下させて軸を回転させる。
はじめはゆっくりと回転させ、煙が出始めたら速度を上げる。
（軸を垂直に保って回転させるのがコツ）【図2】
火きり板の切り込みにたまった粉に火種ができるまで回転し続ける。【図3】
※ 先端部が火きりうすからはずれやすい場合は、軸と火きりうすとの角度をチェックする。
※ 火がついたグループの道具を貸してもらいやすい。
② できた火種を切り出しナイフを使い、発火器の麻の上に落とす。【図4】
少量の松葉でふたをする。【図5】
③ 優しく息を吹きかけ火の粉をとばす。
- (3) 発火器のひもを持ち、周囲の安全に気を配り、体の横で振り回す。
※ 発火器のひもがしっかり装着しているか確かめてから行う。
- (4) 火がついたら、火ばさみで発火器の中の松葉を全てかき出し、新聞紙等に火を移す。

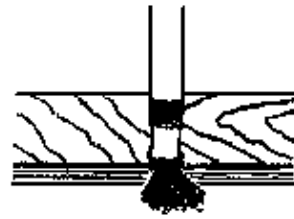
【図1】



【図2】



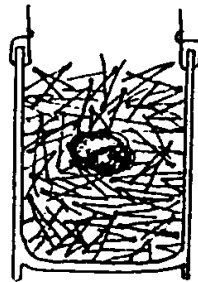
【図3】



【図4】



【図5】

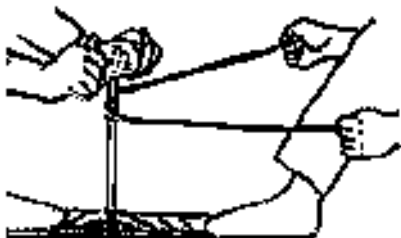


- (留意事項) (1) 火傷に注意する。
 (2) 雨天・強風時は実施可能な場所がないので中止となることがある。
 (3) 舞錐式発火装置を回転させる時は押すときだけ力を入れ、戻すときは反動を利用する。

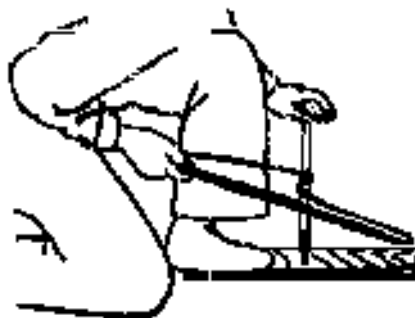
7 資料

- (1) 先端部 材質：アジサイやウツギを乾燥させた物がよい。ラワンでも発火する。
 (2) その他の発火方法

《ひもぎり式》



《弓ぎり式》



《きりもみ式》

